

ふくおかのふくし 160号 Welfare of Fukuoka



今号の内容

- | | |
|------------------------------|------|
| ○ 共同募金運動70年記念 平成28年福岡県社会福祉大会 | p 1 |
| ○ ねんりんピックながさき大会 報告 | p 4 |
| ○ 第16回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭 報告 | p 4 |
| ○ キラリ☆地域のふくしひと (vol. 3) | p 5 |
| ○ 災害ボランティアセンター運営者研修 報告 | p 6 |
| ○ 赤い羽根共同募金 | p 7 |
| ○ 大規模災害対応セミナー 報告 | p 9 |
| ○ 民生委員制度創設100周年記念プレ大会 報告 | p 9 |
| ○ ふくふくIn fo | p 10 |

赤い羽根街頭募金の様子

関連記事（7頁）



じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の

配分金を受けて発行しています。

共同募金運動70年記念 平成28年福岡県社会福祉大会

多世代交流・共生の まちづくりをめざして

福岡県社会福祉協議会、福岡県共同募金会は、去る10月26日（水）にクローバープラザ（春日市）で「共同募金運動70年記念 平成28年福岡県社会福祉大会」を開催しました。本大会は、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らせる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として開催し、県内の社会福祉関係者1,100名余に参加いただきました。

様々な地域の生活課題

人口減少と過疎高齢化、これは既に顕在化しているところですが、今後、2025年には、団塊の世代が75歳以上になります。すると、高齢者人口が増えることはもちろん、要介護の方や認知症の方も今以上に増えるということは明らかです。

また、貧困の問題。最近は、親が働

院大学 学事顧問・教授の市川一宏氏に「多世代交流・共生のまちづくりをめざして」と題して記念講演をしていただきました。

講演では、全国各地の取組事例を交えながら、地域の生活課題にどのように対応すべきかということについて、お話しをいただきました。

以下、その概略を報告します。



ルートル学院大学
学事顧問・教授 市川 一宏 氏



相互に支え合う社会

平成27年4月から生活困窮者自立支援という制度ができました。ここでいう生活困窮とは、単に経済的に困窮しているだけでなく、社会的に孤立していることも含まれています。

真に困窮している人ほどSOSを発することが難しいと言われています。

いいていて子どもが一人で食事をとる家庭が増えています。それではいけないということで、現在、地域の人と地域で暮らす子どもたちが一緒に食事をする、いわゆる「こども食堂」と言われる取組が増えてきています。

さらに、虐待の問題。虐待に至るおそれのある要因としては、育児に対する不安やストレスがあることや、乳児期の子ども、未熟児、障害児等、何らかの育てにくさを持っていること、親族や地域社会から孤立した家庭などがあげられます。つまり、孤立と貧困と様々な子育てのしにくさとが重なって、虐待につながるということです。

これ以外にも、孤立死の問題、非行の問題、引きこもりの問題など、いろいろな地域の生活課題が山積しています。

様々な地域の生活課題に対して、何が必要かと申しますと、それぞれの地域で課題を抱えた方が安心して生きていける、一緒に育つていける居場所をつくることだと私は思います。

特に、孤立させないということがとても大切です。孤立は、認知症の深刻化、虐待、引きこもり、非行、寝たきりなど様々な生活課題の要因となります。

何か不安なことや困ったことがあつた時、ちょっととした働きかけやちょっとした声掛けが、その人の大きな救いになることがあります。

学校と家庭、職場と家庭の間に何もないではなく、「地域がある」という社会が大切です。これが、多世代交流であり、共生のまちづくりであると考えています。

地域に居場所をつくる

す。そのため、待ちの姿勢ではなく、早期に生活困窮者を把握し、課題がより深刻になる前に問題解決を図ることが重要です。

何度もテレビ等で紹介されているのでご存知の方もいらっしゃると思いますが、人口約3700人の秋田県の藤里町では、働いている年齢層の10人に1人あたる113人が引きこもりの方だったと調査した結果分かりました。

そこで、藤里町では、「こみつ」という拠点をつくつたり、そこで提供するうどん作りを引きこもりの方に手伝つてもらつたり、いろいろなプログラムをつくり、引きこもつていた方と協働して地域づくりを進めました。藤里町に訪問したときに話を聞いてみると、「その方に何かしてもらう役割があつたり、行きたくなるプログラムをつくると出てきてくれる」と言われていました。

生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者が社会とのつながりを実感しなければ主体的な参加に向かうことは難しい。「支える、支えられる」という一方的な関係ではなく、「相互に支え合う」地域を構築することが大切だと謳われています。藤里町の取組は、まさに、生活困窮者を早期に把握し、社会とのつながりを実感して

「相互に支え合う」地域づくりになつてゐるのではないでしょうか。

お互いの違いを尊重する社会

2020年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。特にパラリンピックでは、たくさんのボランティアが必要です。そのボランティアは、中学生・高校生、そして大学生から社会人、高齢の方など様々な人が関わっていくことが不可欠です。お互いに、年齢や性別、能力は違いますが、それの違いを認め合い、理解し合う多様性が大事であると思います。年を取ると

「高齢者」とか「老人」などと言われることもありますが、やはり自分の名前で呼ばれたい。地域に住む○○さんと呼ばれたい。そのためには、個々の違いがあることからスタートすべきであり、個々の違いを尊重することから

地域活動が始まると思っています。地域には様々な生活課題があります。しかし、地域と言つても、都市部であつたり山間部であつたり、様々な地域の形があり、そこに住む人も一人ひとり違いがあります。それぞれのニーズに対応していくためには、「靴に

いうことではなく、その間には1から99のやり方があり、それぞれの地域に合つた、1から99の様々な活動を行つていくことがとても大切なことだと思います。

社会福祉の向上に貢献された皆様の表彰を行いました。

本大会では、県知事、県社協、県共募それぞれの表彰状・感謝状の授与を行いました。また、赤い羽根キヤッヂフレーズの最優秀賞の表彰も行いました。（右写真）



受賞された皆様、誠におめでとうございます。

福岡県知事表彰

民生委員・児童委員	38名
社会福祉事業団体関係者	3名
社会福祉事業施設従事者	65名
ボランティア等功労者	10名

福岡県知事感謝

民生委員・児童委員	21名
社会福祉事業団体関係者	8名
社会福祉事業施設従事者	68名
ボランティア等功労者	19名

共同募金運動70年記念県知事特別表彰

永年奉仕者・団体	2名 3団体
優秀地区	47支会

共同募金運動70年記念県知事特別感謝

永年奉仕者・団体	4名 3団体
多額寄付者・団体	1名 19団体

福岡県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉事業特別功労者	156名
民生委員・児童委員特別功労者	31名
優良社会福祉事業施設	14施設
優良社会福祉協議会	6校区社協

福岡県社会福祉協議会会長感謝

社会福祉事業協助者	3名 23団体
-----------	------------

福岡県共同募金会会長表彰

会長表彰	16名 1団体
優秀地区	23支会 106校区分会

福岡県共同募金会会長感謝

会長感謝	43名 10団体
------	-------------

平成28年度赤い羽根キヤッヂフレーズ 入選作品・特別賞

最優秀賞（1作品）、優秀作（10作品）、特別賞（26校）

足を合わせるのではなく、足に靴を合わせる」という活動が重要です。靴に足を合わせると靴擦れができるてしまふことがあります。相手や地域に活動を足していく、というあゆみが大事ではないかと思います。これが、「多世代交流・共生のまちづくり」の原点であり、そういう活動ができれば、新しい希望に満ちた社会につながるのではないかでしようか。